

本誌は、東海大学札幌キャンパス地域研究グループの学生たちによる取材・編集で制作している、南区を楽しむ地域フリーペーパーです。

気持ちを伝えるギフト

特別な彩りを贈ろう ————— 01

シゼンド・フローレ / 百々屋

忙しいあなたとキャンプへ ————— 02

定山溪自然の村

南区ギフトBOX ————— 03・04

ラベンダーバレー / しまくま堂 / WAKKA / 藤野ワイナリー

幸せのおすそわけ ————— 05

CAFÉ de ROMAN / J・glacée / あいあん

六花文庫 ————— 06

南区VR ————— 07

今日はおやきの日 ————— 02-06

ピアハーブ



たまたま入荷していたレアなパクチーの花

特別な

彩りを贈ろう

世界に一つだけ

「いつもと違うフラワーギフトを贈りたい」と思ったことはあるだろうか。最近流行っているフラワーギフトが「ハーバリウム」だ。ドライフラワーやプリザーブドフラワーを専用の液に浸すことにより、長く花を楽しむことができる。そんなハーバリウムを手作ることができるお花屋さんをみつけた。

そこは、住宅街ということを忘れてしまいたい程、素敵な空間が広がるお花屋さん「Green art 百々屋」。切り花、ドライフラワー、アレンジメント、花苗、樹木、さらに普通の花屋ではあまり見かけることのない多肉植物や観葉植物など幅広く取り扱っている。オリジナリティあふれる独創的な

想いをブーケに込めて
いつの時代も花は、特別な想いを繋げる贈り物とされてきた。お花屋さんはその想いをカタチにするお手伝いをしてくれる。お花屋さんにはできない、人を一瞬で感動させるフラワーギフトは、贈っても、もらっても幸せな気持ちになる。

作ってもらったのは、花の生命力を感じるフレッシュなブーケ。さわやかで落ち着いた色合いだ。包装をしてもらっている間、話をしていると「この小さい緑色の花が何かわかりますか？」と尋ねられた。私は何かわからなかったので顔を近づけて見た。すると、微かに野菜のような香りがした。「あっセロリ！」と思って言ったが、正解は「珍しいパクチーの花なんです」と教えてくれた。花びらは小さいが、存在感のあるパクチー。さっぱりとした独特の香りがブーケの存在感を引き立てていた。

注文を受けることが多いという。



Green art 百々屋
札幌市南区真駒内柏丘 8 丁目 3-10
問い合わせ 011-581-8577
営業時間 10:00~18:00
定休日 日曜・月曜



シゼンド・フロレ
札幌市南区川沿 4 条 3 丁目 2-11
問い合わせ 011-572-4587
営業時間 9:30~18:30
定休日 日曜



だいしーあなたとキャンプへ



特別なひと時をあなたに

「素敵な場所に連れてきてくれてありがとう」。こんな言葉をかけられたことはあるだろうか。思い出は形としては残らないが、記憶に一生残るギフトになる。そんなギフトを贈ってみた。

私には、日々の課題に追われて疲れている友達がいる。その友達は大学に入学してからいつも一緒にいる4人組のうちの1人だ。その友達に「何かしてあげたい」と考えていた。疲れにはリフレッシュが必要不可欠。そこで他2人の友達と特別な1日をプレゼントするため、キャンプの計画を立てた。

向かった先は札幌市定山溪自然の村。キャンプ初心者でも気軽に泊まれることで評判の野外教育施設だ。そこは、鳥や虫の声、風の音をいつもより感じる場所だった。しかし、夜になれば一変。真っ暗な森の中から夜空に輝くたくさんの星がはつきりと見え、美しさに吸い込まれるように感じた。

星空の下、たき火を見るだけでなく、りんごやマッシュマロなどを串に刺して焼いて食べた。「この果物、焼いたら美味しくなるんじゃない?」「これと組み合わせてみよう」。こうしたオリジナルを試すことが楽しかった。日常では決してできないたき火は、日々の



忙しさを忘れさせ、癒しをくれる特別なひと時だった。寝る支度をしていると「あつという間だったね」「一日楽しかったね」とその日の話で持ちきりだった。

これまでにない朝食を

朝は、鳥のさえずりで目が覚めた。私たちは1日目を楽しみすぎて寝不足だった。しかし、その眠気を吹き飛ばしたのが石窯で焼く手作りピザだ。石窯は元々施設にあるので、食材があれば焼くことができる。朝から石窯を使ってピザ作りをするなんてそうそうない体験だろう。普段なら簡単に済ませてしまう朝食も友達となら。大変なことだが楽しみに変わった。ピザは、チーズ、トマト、ウインナー、ケチャップなど色とりどり。焼き上がりをドキドキ待ち遠しく見つめていた。「でき



定山溪自然の村

札幌市南区定山溪

(豊平峡ダム下流国有林野)

問い合わせ 011-598-3100

受付時間 9:00~17:00

定休日 無休



(文 佐藤文香 / 写真 湯浅琴音)

た!」ピザができると4人ですぐに食べ始めた。「焼きたてのピザ、おいしい」「このピザを作った人センスある」と盛り上がった。熱々のピザは外がカリッと焼け、チーズがとろけて口の中に広がった。こうして友達と朝のさわやかな空気の中での朝食タイムは、リラックスでき、キャンプでしか味わうことのできない特別なひと時になった。キャンプは、自然に包まれ、心が落ち着く。帰る頃になると友達もキャンプに行く前とは違って、表情が明るくなっていた。きつと自然が癒してくれたのだらう。別れ際、友達は「素敵な場所に連れてきてくれてありがとう。また行こうね」と私たちにいった。思いがけず友達から最高のギフトをもらった。



ギフト特集、今回は真駒内駅セブンイレブン横にある、「ピアハーブ 真駒内5号店」さんのおやきを集めました。

ちよっとりっちな
シュークリーム

CAFÉ de ROMAN カフェ ドロマン

札幌市南区藻岩下2丁目2-47
問い合わせ 011-588-2121
営業時間 11:00～23:00
定休日 水曜

藻岩シュークリーム
168円(税込)



藻岩山にちなんだ「藻岩シュークリーム」がプレゼントに一番人気。一般的なシュークリームと異なり、四角い形と表面にかけられたチョコプレートが特徴。ナイフで切るとチョコプレートがパキッ、生地はサクッ、中のカスタードクリームがトロツ、とあふれ出る。価格は税込み168円とリーズナブルだ。

店内にはテーブル席に加え、大きなソファアが4つ置かれた個室もあり、家族連れもゆったりとした時間を楽しめる。森の香りが漂うテラス席もおすすめる。細かなところまで注文を聞いてくれるオーダーメイドのデコレーションケーキや、お店で手作りしているペーパーフラワーなどのギフトも必見だ。

スイーツで

幸せの



おすそわけ



啓北商業
×
SAN+

このページは啓北商業高等学校の授業「広告と促進販売」を受講する11名の高校生とのコラボページです。私達SAN+のメンバーも授業に参加し、記事づくりについて説明しました。生徒さん達は取材先選び、アポイントメントから始まり、取材、記事づくり更には写真撮影までを担当しています。

J・glacée

ジェイ・グラッセ

札幌市南区定山溪西4丁目356
問い合わせ 011-598-2323
営業時間 9:00～18:00
定休日 無休
(仕入れ状況・イベントにより変動有)

旅の思い出に
アップルパイを

アップルパイ
410円(税込)



定山溪温泉の「ぬくもりの宿ふる川」に隣接する「J・glacée」。アップルパイ専門のカフェだ。北海道産の酸味が強めのりんごを使用し、砂糖を極力使わずにみりんで漬けたんだフィリングは、素材本来の風味と食感が引き立つ。ゴロゴロとしたりんごのフィリングをこだわりのパイ生地で包み込み、焦げ目がつくまでオーブンで焼き上げる。アップルパイからは甘い香りが漂い、生地の合間からりんごが顔を出す。かんだ瞬間パイ生地がサクッ、りんごがシャキッとという食感を楽しんだら、程よい甘さとバターの風味が口の中に広がってくる。

お店に入ると明るい笑顔の店員さんが出迎えてくれる。「お客様にゆったりとくつろいで欲しい」という願いからカフェスペースは靴を脱いで利用する。テーブル・椅子・床などに木材がふんだんに使用されたカントリー調の空間には、定山溪温泉ならではのゆったりとした時間が流れていた。

プレーンパンケーキ
フルーフ、ソース付き
700円(税込)



家族で食べたい
まんまるパンケーキ

パンケーキcafe
あいあん

※パンケーキ単品は600円(税込)

地下鉄澄川駅から徒歩ほど近い場所にある「パンケーキcafe あいあん」。パンケーキをテイクアウトできる珍しいお店だ。店主は以前、横浜で鉄板料理のお店を開いており、店名の「あいあん」も鉄板の鉄(iron)から名付けられた。

食材にこだわり、卵、バター、牛乳、小麦粉は道産のものを使用する。注文を受けてから1枚1枚丁寧に焼き上げ、テイクアウト専用のランチボックスに入れてくれる。右側半分には3段のまんまるでフワフワなパンケーキ、左側にはたっぷりの生クリームにソースがかけられ、カナダ産のメイプルシロップと果物の付け合わせも入る。ソースは果物を使用した自家製のものとチョコプレートから選べる。

店内用のメニューには、特製煮込みハンバーグやチーズオムレツなどとセットになったそば粉入りの食事用パンケーキと、トッピング用のアイスやチーズクリームが入ったスイーツパンケーキが用意されている。他にも見応え食べ応え十分なおムライスやキーマカレーなどの洋食メニューも充実している。

札幌市南区澄川4条2丁目
11-18 吉田ハウスE
問い合わせ 011-831-5757
営業時間 平日11:00～18:00
日祝11:00～19:00
閉店1時間前LO
定休日 火曜
(祝日の場合振替になる場合有)

六花文庫



五輪通から光塩学園女子短期大学のある角を曲がると見えるのは、ツタに囲まれた素敵な建物。元々、この建物は六花亭の真駒内店だったが、2004年に「六花文庫」として生まれ変わった。



広々とした読書スペース。ゆっくり落ち着ける空間になっている。

コーヒーは 300 円、おかわり自由。六花亭のお菓子も 1 つついてくる。



静かな「食」のアーカイブ
蔵書は約 8000 冊。小説、エッセイ、歴史、雑誌、絵本などジャンルこそ幅広いが、そのどれもが「食」に係した本だ。どんなに人気でも、流行がすぐに過ぎ去ってしまうような本にはあえて手を出さず 10 年先、20 年先まで読まれる本を選んでいる。
六花文庫の特徴はその静けさ。BGM もなければ、おしゃべりの声も聞こえない、読書に特化した空間が広がっている。喫茶店ではないけれど、図書館とも違う、静かで落ち着いたこの空間を、自分の書齋のように感じている常連さんもいる。



札幌市南区真駒内上町 3 丁目 1-3
問い合わせ 011-588-6666
営業時間 11:00 ~ 16:00
開館日 4 月 ~ 10 月 火 ~ 土曜
11 月 ~ 3 月 水 ~ 土曜
定休日 年末年始
イベント時、入館できない場合有

訪れた人の中には、赤ちゃんを連れてお母さんも。あまりに静かなので赤ちゃんはすぐに眠りにつく。お母さんはほっと一息、のんびり読書にとりかかる。
家で読書をしようと思っても、誘惑が多くてなかなか集中できないという人は、一度六花文庫を訪れてみては。
コーヒーを飲みながらゆっくり読書を楽しむという充実した時間を発見できるかもしれない。
本と人との一期一会
六花文庫では年に 2 回「本のぱくりっこ」というイベントが開かれる。「ぱくりっこ」は北海道弁で「交換しあう」という意味。その名のとおり、自分が持って行った本の冊数分、誰かが持ってきた本と交換できる。本のラインナップは時間によって変化するため、まさに本と人との意外な出会いをする「一期一会」のイベントになっている。次回の開催はツタの紅葉時期で 10 月か 11 月を予定。
(文 山野 茉莉奈 / 写真 鐘下 拓人)

読書の時間

「食卓一期一会」

長田弘 著



1987 年 晶文社

六花文庫の方に「おすすめの本はありますか」と尋ねると、本棚から 1 冊の本を取り出してくれた。

堅いタイトルとシンプルな装丁から、最初は難しそうな印象を受けたが、すぐにその世界観に惹きこまれた。

全編が食べ物の詩集。たとえば料理のつくり方から始まる詩。その料理が食べたくなってくるほど美味しそうにつづられている。しかし、そこから物語が広がり、全く予想のできなかった結末にたどりつく。次の食べ物にはどんな話があるのだろうと、わくわくした気持ちでページをめくった。

「食べ物の中にはね、世界があるんだ」。身近な食べ物の中にも隠れた世界が潜んでいる。いつもの食卓がきらきら輝いて見えるだろう。

でも、空腹には耐えられない。たった 70 円だもんいいよねって。安いって美味しいにもつながるし。



札幌市民の憩いの場、国営滝野すずらん丘陵公園。6月23・24日の2日間にわたってアーティストSEKAINO WARAIの野外コンサートが開催された。その会場に、南区をアピールするユニークなブースがあったことをご存じだろうか。

南区の新たな試み

南区市民部地域振興課では、VR（バーチャル・リアリティ）を利用し、区の魅力を発信する「VR動画体験」のブースを設営。コンサート当日には多くの来場者を楽しませた。若手職員を中心に意見を出し合い、東海大学国際文化学部デザイン文化学科早川ゼミの撮影協力によって実現したこの企画。多くの候補地の中から撮影場所は豊かな自然と芸術文化の魅力が伝わる場所として、石山緑地、札幌芸術の森、豊平峡ダムの3か所が選ばれた。

5月21日から6月9日にかけて各所でドローン撮影が行われたが、苦勞した点多々あった。ドローンにVR撮影が出来るデジタルカメラを載せての撮影。既製のキットが無いことから、技術者自ら機材に手を加える必要があり、6回もの試作を重ねてベストな形に近づけた。「安全性を確実にしつつ、カメラが揺れない工夫も大変だった。外に出られない方や身体の不自由な方に、是非見てもらいたい」とドローン技術者の山本由紀夫さん。同区地域振興課の三好貴大さんは「視点が変わると景色の見え方が全く違ってくる。普段見られない角度から風景を楽しめることが魅力」と撮影を振り返った。

特集記事



南区VR



実際にVRを体験する来場者



公開された豊平峡ダムの映像

異なる視点から

VR体験者が首の傾きや身体の向きを変えると、映像も次々と変化。まるでその場にいるかのように景色を楽しめるのがVRの面白いところ。来場者はVRゴーグルをかけ、四方をきょろきょろと見回すことになる。そのなんとも珍しい光景に人々が殺到、ブーイングは大いに賑わった。来場者に特に人気があったのは豊平峡ダムのVR映像。勢いよく水が噴き出すダムの様子を上空から見下ろせる。まるで鳥になってダムの上を飛んでいるような感覚は非常にリアルで、怖さすら感じるほどだ。

「行ったことのある場所なのに、もっと身近に感じられた」。来場者の1人がそう話してくれた。VRは日常的に体験することのできない視点を伝えることができる。実際に現地に赴き、目で見るだけでは分からない隠された魅力。それを上手くVRというかたちで発信し、人々にインパクトのある体験として与える。若手職員のアイデアから生まれたユニークな試みは、南区の新しい「見方」を教えてくれた。
(文・写真 佐々木夕夏)



賑わうVR体験ブース

編集 発行



東海大学チャレンジセンター「地域連携プロジェクト」
〒005-8601 札幌市南区南沢5条1丁目1-1
東海大学札幌キャンパス
Tel 011-571-5111 Fax 011-571-6903

このフリーペーパーは、南区地域振興課と東海大学チャレンジセンターから支援を得て発行しています。

プチ編集後記

SAN+ をお手に取っていただき、ありがとうございます。今号から、新たにメンバーが加入し、編集部が一層にぎやかになりました。そんな編集部の雰囲気をお伝えするような今号のテーマが「ギフト」。ギフトっているんな形がありますよね。大きかったり、小さかったり。食べ物だったり、思い出だったり……。喜びを伝えるなら、是非南区で。きっと素敵なギフトがあなたを待っています。



表紙撮影はシゼンド・フローレさんの前で

Thanks! 本号も南区のたくさんの方にご協力頂きました。ありがとうございました！

